

平成26年度 第2回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時：平成27年3月20日（火） 午後2時00分～午後3時30分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者：（委員） 委員長他 8人出席（10人中8人）

委員長 西川 明

副委員長 青木 繁夫

委員 田中 祐子、小松 美智子、佐藤 孝雄

篠原 朋子、西本 豊弘、原田 克己

（事務局）

生涯学習部長 朝生 智明

生涯学習振興課 志保澤 剛（文化財保護室長代理）

加曽利貝塚博物館 飛田 正美、林 利浩、石橋 一恵、塚本 充彦

郷土博物館 湯浅 忍、田中 信治郎、芦田 伸一

4 議題

（1）平成26年度博物館事業報告について

ア 加曽利貝塚博物館

イ 郷土博物館

（2）平成27年度博物館予算・事業計画（案）について

（3）その他

5 議事の概要

（1）平成26年度博物館事業報告について

両博物館における平成26年度の事業結果について報告し、委員より意見を受ける。

（2）平成27年度博物館予算・事業計画（案）について

両博物館における平成27年度の予算・事業計画を説明し、委員より意見を受ける。

（3）その他

特になし。

6 会議経過

午後2時00分 委員10人中8人着席

（久留島委員、池田委員は欠席。）

田中郷土博物館副館長の司会進行により、朝生生涯学習部長の挨拶、西川委員長の挨拶の後、会議資料の確認及び千葉市立博物館協議会運営規則第3条の規定により、この会議が成立していることを告げた。

また、本協会議は千葉市情報公開条例25条に基づき会議を公開していることを告げ、以後、西川委員長を議長として、会議が進行した。

議事（1） 平成26年度博物館事業報告について

< 説明 >

飛田・湯浅館長 はじめに、加曽利貝塚博物館における平成26年度の事業報告として、入館状況・加盟団体等への参加状況・事業結果（維持管理事業・資料収集保管事業・調査研究事業・展示事業・教育普及事業・広報活動・博物館整備）について説明し、続いて郷土博物館における平成26年度の事業報告として、入館状況・加盟団体等への参加状況・事業結果（維持管理事業・資料収集保管事業・調査研究事業・展示事業・教育普及事業・市史編さん事業）について説明した。

< 質疑応答 >

西川委員長 ただいま事務局より説明がありましたが、ご質問、ご意見等があつたらお願ひします。

（委員からの発言なし）

議事（2） 平成27年度博物館予算・事業計画（案）について

< 説明 >

飛田・湯浅館長 はじめに、加曽利貝塚博物館における平成27年度の博物館予算・事業計画（案）について説明し、続いて郷土博物館における平成27年度の博物館予算・事業計画（案）について説明した。

< 質疑応答 >

西川委員長 それではただいま説明があった平成27年度博物館予算・事業計画（案）について、質問、意見等があつたらお願ひします。

原田委員 加曽利貝塚博物館にお聞きしたい。先ほど説明があった復原集落の整備について、その製作過程がわかるように見せていくということはたいへんユニークな試みだと思うが、この復原住居はもともとあった住居跡の上に作るのか、それとも全く別の場所に作るのか。

飛田館長 もともと縄文時代中期の建物跡があったところに、以前8棟の復原住居が建っていた。そこがまだ残っているのでそれを利用する。同じ場所でかさ上げをして、地面の養生を十分にした上で建てていく予定である。

原田委員 わかった。では、その際に、木材を組むときに使う縄を参加者に作ってもらうとか、使用する木材を、石器を使って伐採してもらうとか、そういう工夫は考えているのか。

飛田館長 先日、博物館にあるレプリカの磨製石斧を使って学芸員が木を伐ってみたところ20分もあれば伐れてしまった。これはやらないわけにいかないと思っている。敷地内にはいらない木がたくさんあるので、講座の中で伐採実験は十分やっていく。そうすれば、このくらいの木が何回磨製石器で打ったら伐れるのかもわかつてくる。また、先ほど述べたように貝灰づくりも市民の皆さんとともにやっていっていきた

い。これくらいのイボキサゴから出来る貝灰はこれくらいということがわかれれば、既に調査が済んでいる大膳野南貝塚で貝灰を床に貼った住居が発見されているが、それにはどのくらいのイボキサゴを使わなければならなかつたもわかつてくる。それほど容易なことではなかつたと思うので、そういうこともあわせて実験していきたい。

青木副委員長 郷土博物館は今年度2回埋文センターと共同で展示事業を行っているが、来年度はそういう関係の展示はないのか。というのは、せっかく埋文センターは多くの遺産を持っていると思うし、費用もそれほどかからない事業だと思うので、もっと活用した方がいいのではないか。

湯浅館長 埋蔵文化財調査センターが持っている資料には貴重なものがたくさんある。本年度は、大膳野南貝塚と千葉大学医学部の調査で得られた遺物の二つを当館の1階で展示させてもらった。郷土博物館で考古の展示を行う場合には加曽利貝塚博物館や埋蔵文化財調査センターから資料を借りないと展示ができないため、こうした連携事業は欠かせない。そういう意味で来年度も埋蔵文化財調査センターと連携した展示事業をぜひやっていきたい。あわせて、埋蔵文化財調査センターを知っていたらお願いしたい。

西川委員長 他に質問はあるか。せっかくの機会なので両博物館に対する長期的な要望などもあつたらお願ひしたい。

篠原委員 加曽利貝塚の特別史跡指定についてもう一度確認しておきたいのだが、タイミングとしてはいつの指定を目指しているのか。

飛田館長 後ほど報告する予定であったが、質問があったので、ここで今後の特別史跡に向けた準備について報告させていただく。従前の予定では平成27年度中に報告を作り、28年度中に申請ということを考えていたが、本年度文化庁へ行つていろいろと調整する中で、報告書の目次等も検討した。その中で、文化庁の調査官の方々から、これも入れてほしい、あれも入れてほしいというような要望があり、こうしたものも含めると当初の予定年限では難しいということがわかつたので、それを市の幹部に伝え、政策会議等でも報告し、9月の第3回定例議会で市議会にも報告をしてご理解をいただいたところである。その内容は、平成27年度に総括報告書で扱う内容の図化や写真撮影等を行い、28年度に執筆をして、28年度中に印刷・製本をして本を出す。そして申請は29年度にしていく。あわせて史跡整備保存計画も作っていく。これは今後の加曽利貝塚をどのように保存し、活用していくかを決めるものであり、これが無いと申請が受け付けられないということなので、この史跡の保存計画を平成27・28年度で作り、29年に総括報告書と史跡整備保存計画の2冊を持って申請にあたるという予定でいるところである。

篠原委員 わかつた。では、キャンペーン事業を行つて、例えばカソリーヌなどを作つて千葉市の皆さんに加曽利貝塚の特別史跡指定に向けた盛り上がりを期待しているのだと思うが、こうした市民レベルの盛り上がりが、指定になにか影響があるのか。

飛田館長 加曽利貝塚は既に国の史跡であるので、学術的な高さという点は証明されている。

ところが史跡の中でも特に貴重で、重要であるというものがないと特別史跡にはあがらない。市民レベルの盛り上がりも当然必要ではあるが、それ以上に加曽利貝塚の学術的高さを証明することが第一である。しかし、それは我々が行っているキャンペーンと相反することではなくて、そのくらい重要であるということをまず市民の方々や来館者に知っていただくことが必要だと考えている。キャンペーンで加曽利の周知をする中で、また普及活動の中や展示の中で、特に展示については、今回の展示替えで、これまでの縄文時代研究や貝塚研究の最新情報を入れていくということを考えている。キャンペーンで機運が高まればもらえるのかということは話が異なるが、あわせて重要であると我々は考えている。

篠原委員

では、加曽利貝塚が学術的に特に重要だというところのセールスポイントはいろいろあると思うが、簡単にいうとどういったところなのか。

飛田館長

現在、古い時代に調査したものを整理しているが、その当時、一度目を通して報告はされている。しかしその後学術研究は進んでいるので、同じものでも捉え方が違ってきてている。また、加曽利貝塚を今後掘る予定は無いが、周辺の千葉市内や市原市など大きな貝塚が5つほど全面調査されている。その成果を取り込み、資料を比較検討することによって、加曽利貝塚の資料の価値の高さ示していきたいと考えている。一番重要なのは、縄文時代のこれまで教科書等に書いてあったイメージや貝塚の持っていたイメージを大きく変えることだと私は思っている。それを変える資料は既に集まっている。我々がこれまで展示でも示してきた縄文時代感というものが、この報告書を持って大きく変わるだろうと考えている。その核心部分については現在報告書を作っている担当者に聞かないといいにくいが、我々はそれができるだろうと考えている。

青木副委員長 このように理解してよいか。今、総括報告書を作るというのは、今まで史跡だったのでこれまでの価値判断の下ですっと来た。しかし今度特別史跡を申請することは、現在の視点で加曽利貝塚を再評価して、その価値がどこにあるのかを明らかにし、その価値が認められたときにはじめて加曽利貝塚が特別史跡になるという。このように理解していいか。

飛田館長

はい。

青木副委員長 では、もう一つ保存管理計画だが、今の傾向というか国際基準といつていいかわからないが、世界遺産を制定して以来、文化財行政の中で史跡を指定する時には必ず価値判断の報告書と保存管理計画をセットで付けるという方向で文化庁も指導していると思う。今回、加曽利貝塚は当然保存管理計画を作るわけだが、そこにはどういう形で保存するか、あるいは管理していくかという計画を示すことになる。史跡保存や管理というものは、市民の協力だと、周辺の自治体の協力がなければできないことで、つまり保存管理計画を作ればそれを市民に認知してもらわなければならないということになる。その意味で大々的にキャンペーンを張るというか、理解をしてもらわないと成り立たないというふうに理解するが、そのような理解でよろしいか。

飛田館長

はい。ですから二つの車輪で前に進むことなので、市民へのキャンペーンもとてもある。市民がこちらを向いていない中で勝手に行政だけで進めていくという

ことは有り得ないことだ。今青木副委員長がおっしゃった方向で進めてく覚悟である。

篠原委員

理解はしたが、方法論はもちろんプロの方がお考えになるのだと思うが、昨年度の広報活動で市民が盛り上がるかどうかについて私は若干疑問がある。つまり今私が伺ったように加曾利貝塚って今何が一番のセールスポイントなんだということをわかりやすく市民に理解していただきて、縄文時代というのは私たちが歴史の教科書で習ってきたようなレベルの時代ではなかったということが、例えば加曾利貝塚でわかるのだとすれば、その新しい発見の面白さとかワクワク感をきちんと市民に伝えない限りやはり盛り上がらないと思う。カソリーヌがてきて、グッズがてきて、それをお祭りで配りますとかポスターがありますとかいうことだけでは、私は今のような理解はなかなか得られないのではないかと思う。その点については200万の新しい予算をぜひ有効に活用していただきたいと思うが、私はやはり地道な啓蒙活動が来年度の事業の中でも足りないと思う。特別史跡指定に向けてこの数年間がある種勝負のタイミングだと思うので、例えば小学校へ行って、子どもたちに、あそこに公園があるけどこんなに面白いところなんだよと説いて回るようなことをするとか、そうすると子どもたちが家に帰ってから、そういう話をしてくれるかもしれない。こうした地道な活動というものが私は重要だと思うが、今まで紹介してもらった中には、これまでしてきた講座であったり、資料づくりであったりといったもののみであると見受けたので、この数年はちょっと違う形でのトライアルをぜひした方が良いと考える。そのことは郷土博物館にもいえることである。せっかくサクラの季節には人が大勢集まるのに、やはり博物館も新しくなっていかないと地元の皆さんがもう一度サクラの季節に中に入れて楽しいことを見つけて帰ろうという気持ちになかなかなれないと思う。いろいろな連携事業も前の年の通りというのがほとんどで、拡充という話もあったが、何か新しいことを一つはぜひやってもらいたい。そうでないと博物館が一部の人のものにしかならないという気がする。私は、両博物館は千葉市の大切な宝物だと思うので、市民に愛されるための工夫がもう一段あつたらいいと強く思った。

飛田館長

たいへん貴重がご意見をいただきありがとうございます。舌足らずの部分がありましたら、同じ教育委員会なので、校長会や社会科部会の先生方にアピールをしていくということは考えていたところで、実はこれまであまりしてこなかったのですが、今後は学校教育と連携してより多くの学校の児童生徒が来館してもらえるような動きについては新年度精力的に進めていく予定である。

原田委員

今年度千葉観光文化検定で加曾利貝塚について講師をお願いする予定であるが、その理由は、我々が義務教育の中で教わった歴史と現在明らかになっていることとでは大きく変わっていることがある。特に縄文時代の生活感というものは私たちが教わった狩猟採集の段階から三内丸山やいろいろな遺跡が見つかり、博物館で働く人々の尽力もあって、かなり内容が変貌してきている。例えば初期の農業であるとか、宗教的なもの、あるいは大木で作った望楼のようなものが出たりとか、私たちが教わった縄文感とはかけ離れた形で新たな発見・研究等が進められている。こうしたことを一般市民の人たちにももっと知っていただく必要がある。

今現在子どもたちの教育の中でどこまで教えられているのかその辺はわからないが、そうした最新の状況を市民に広く知らしめてもらえば、自ずからしたものに対する興味が高まっていくのではないかと考えている。

田中委員

小学校に勤務しているが、本校では加曽利貝塚に4月当初歴史の学習の始まりとして6年生が行って見学している。歴史の学習の始まりなので、なかなか暮らしどと遺跡を一致して理解できない部分がある。展示室に入って見るのだが、今は映像の時代になってきている。先ほどは暮らしがわかる展示方法を工夫したことだが、予算はかかると思うが10～15分の映像を流してもらえるとより暮らしなどがわかって子どもたちにとって学ぶ場となるのではないか。私は市のセンターの講座で、火起こし体験とスープ作りを体験した。黒曜石を使って、土器を使ったスープづくりはすごいと思ったが、なかなかそこに行って学ばせるということは難しい部分もある。桜木小学校へは出前授業をやっているようだが、それをもう少し他の学校でもやっていただけたらと思う。確か埋蔵文化財調査センターではこうした授業をやっていて、火起こし体験とか勾玉づくりができると聞いている。こうした形でできるようになれば学校としても貴重な学ぶ機会になるのではないかと思う。それからもう一点郷土博物館から今年初めて来てもらって鎧兜やその時代の着物を着る体験を子どもたちにさせてもらった。とても良いことなのだが、報告で見る限り3校でしか実施していない。実は柏台小学校から来た教員がこういったものがあると教えてくれて初めて知った。PRはされていると思うが、なかなか学校に浸透していないというところがあり、もう少しPR活動をしてもらえばいい学習ができるのではないかと思う。

西本委員

2月21日に加曽利貝塚特別史跡に向けての講演会に出席させていただいて、非常に熱意を感じた。以前にはない動きで、これはこれまで沈滞していた千葉市の文化行政がだいぶ変わったなと思ったのでエールを送りたいのだが、特別史跡になるには私は1年や2年では準備が間に合わないと思う。というのはこれまでの加曽利貝塚の博物館紀要に書かれているようなことをどんなにまとめて特別史跡にはならない。必要なのは史跡に指定したときよりも更に次の段階に上がるための新しい研究状況がこうだから加曽利貝塚は特別史跡になる必要があるということをいわなければ文化庁だってうんといわない。私もいろいろ話を聞いているが、文化庁はかなり厳しいと思う。先ほど原田委員がいわれたように新しい研究状況がどうなので、その中で加曽利貝塚がどうなんだということを勉強していかないと、さらにそれを市民にもっと普及しないと認めてもらえないのではないかと思う。史跡になった後もずっと地道な研究を続けているが、リストを出して、子供の墓がどのくらいあって、土器がこれくらい出てきたといつてもそれはこれまでのレベルの積み重ねでしかない。特別史跡というものは内容的にちょっと上がったものが必要である。今は埋文センターと郷土博物館と加曽利貝塚博物館と横の連携ができてきているので非常にいいと思っている。大膳野南貝塚の展示も加曽利が休館中だからこちらでやったのだと思うが、今までだとこういったことが考えられなかった。加曽利は加曽利、郷土は郷土ということだったのが、今は横の連携ができてきているので、新しい研究状況を千葉市の埋文関係者、事務方も含めてきちんと勉強してもらいたい。

世界遺産のときもずいぶん加曽利に手を挙げろといったが、手を挙げなかつた。あの時はやる意思がなかつた。加曽利単体でも世界遺産にしたらいいじゃないかと私は思つていたのだが、その当時の加曽利の人たちはその気がなかつた。今は違う。だからもう一度教育委員会の中できちんと勉強して、私は今たいへんいいと思っている。2月21日に行ってびっくりした。もう一つポイントとしていいたいのは世界の中で加曽利貝塚はどのようなものかという視点を考えてもらいたいということである。千葉県の千葉市の加曽利貝塚といつてもこれはだめで、千葉市にはこんな遺跡があるからといつても通用しない。加曽利貝塚が世界の中でこうゆう位置づけであるという発想がないと特別史跡にはならない。もっと大きな意味で視野をもつて1～2年かけて見なおしてほしい。それが私のこれから期待です。

佐藤委員

まず、お礼申し上げたいのは、数年前にお願いしたSNSでの情報発信をやっていただいたことである。郷土博物館の方ではその発信が入館者数にもいい影響を及ぼしているようだとのことであった。加曽利貝塚博物館も今年度の開館日数は例年の3分の1であるにも関わらず、昨年の半数以上の入館者数があったとのことで、これは特に何か思い当たる理由があるか、閉まるからその前にということなのか。

飛田館長

そういう効果もあったかもしれない。今回企画展を最終的に打たせていただいたが、その評価が非常に高かつた。本来なら例年の3分の1で入館者数が留まるところが、ここ数年少しづつ興味をいただいているように感じている。また、今年は以前と異なり、副館長を中心にホームページでいろいろなものを発信している。それが影響しているのではないかとも考えている。それまでずっと同じホームページで変わらなかつたものを頻繁に更新するようになった。発信する媒体が少なかつたというより努力が少なかつたと考えているので、今後ともできる限りの媒体を使って情報を発信し、特にホームページにはいろいろ面白いものを掲載していこうと考えている。

佐藤委員

たいへん結構だと思う。ぜひSNSについてはフォロワー数の変化も追っていたきたいと思う。そうするとどのくらいの効果があつたのか相関関係がつかめると思うので、それをお願いしたいと思う。それからウェブサイトを少しいじられているということだったが、これもとっても良いことだと思う。ぜひ今後、お金もかかることなすぐには難しいと思うが、最近よくいわれるのがスマホファーストという言葉である。若いお母さん方にこうした博物館に来てもらうには子どもが大事だと思う。そうするとどういうイベントが何時どこであるかということをお母さんが何で見るかというと、1日主婦で忙しく家事をしている方が、PCの前にじっくり座れる時間などほとんどない。そうすると移動中にスマホでみている情報が一番たいせつになっている。だから最近はウェブサイトの作り方もスマホファーストに変わってきている。それをぜひ意識していただきたいと思う。それともう一つイベントもいろいろご覧になっていると思うが、全国レベルで見ると非常にイベントが多様化してきている。ここの土器作りは伝統的なイベントだが、最近よくあるのが、お菓子作りである。今、私の大学の卒業生がその一人者になってしまったが、縄文土器のクッキーを作っている。「ドーキー」というのだが、今全国でひっぱりだこである。食べることというのは入口としては非常に入りやすい。実際に出ている

土器とそっくりなお菓子をどうやったら作れますというのをやって神奈川県の歴史博物館などで何度もイベントをやっているが、あっという間に無くなってしまうくらいすごく大人気である。その作り方のレシピをネットにあげたりとか、あたらしいイベントの形もいろいろ勉強していただくとあるのではないかと思う。それは先ほど西本先生がおっしゃったようにシンクグローバル・アクトローカルじゃないかと思う。世界を見ながら考えてもらえばいいと思うのは、例えば主だった世界の4大博物館などに目を向けるとものすごいことをやっている。年間にやっているイベントの数は半端ではない。例えばナイトミュージアムなどは夏休みの定番行事としてやっている。さらにいろいろな企画をどんどん出して、それをSNSでも発信しているし、本当にいろいろなことをやっている。こうしたものを見るとアイデアとしては、実現可能なものもあるのではないかと思う。

原田委員

素朴な質問で申し訳ないが、加曽利貝塚というのは世界最大級なのかそれとも世界一なのか。

飛田館長

世界最大級である。

原田委員

では、現在加曽利貝塚と同規模の貝塚は国内、国外にもあるのか。

飛田館長

連結している貝塚全体で考えると大きいのだが、世界中の貝塚について皆が興味を持って調べているわけではないので、それを研究されている西本先生の前ではいいにくいが、世界には三大地区があり、アメリカにあたり、ヨーロッパの西部の方にあたりする。また、石器時代から現代まで同じところに貝塚を作りつづけているところが北アフリカの方にあたりもする。そうするとそれが面積とか厚さとかいろいろ比較する部分があり、一概にどれが一番とはいえないで、これについては専門家に聞いていただきたい。我々は「級」がついていればいいのかなと思っている。

原田委員

日本人は世界に弱い。世界で認められたり、世界一とかいわれるとすぐに飛びつく。だからこうした視点も必要なのではないかと思う。国内で重要だということの他に、例えば広さでいいたら世界一とか、ギネスに載ったとかすれば歴史のことをよく知らない人でもすぐに飛びつくというようなところが日本人にはある。こうした視点でいかに人々に訴えるか、人々の目をこちらに向けさせるかという考え方もあるのかと思う。

朝生部長

いま各委員から貴重なご意見をいただきありがとうございます。私どもとしてもこの世界有数の加曽利貝塚、また日本の歴史の中でも重要な位置づけを持つ千葉氏について、博物館なので本来の研究部分に注力をしながら、また、博物館の他の役割でもある普及事業にその成果をよく反映しながら先ほど皆様からお話をされているようにどうやって市民の方に価値等を周知させてもらえるかということを、全庁をあげて取り組んでいこうと考えている。教育委員会の中はもちろん、市長部局とも都市アイデンティティとからめて、千葉市の宝として発信していくことを強化していくこととしている。いただいたご意見をもとに27年度事業が発展するように努めてまいりたい。

西川委員長

非常に中身の濃い、貴重なご意見をたくさんいただきました。ぜひ事務局として対応してほしいと思う。他に議題はあるか。

議事（3） その他

田中副館長 事務局としては特にございません。

西川委員長 特になければこれで閉会とする。

それでは、事務局にお返しします。

湯浅館長の挨拶により、平成26年度「第2回千葉市立博物館協議会」を終了した。